

農業の未来を明るく

農業従事者の減少、耕作放棄地の拡大など多様な問題を抱える日本の農業。公明党は農業の活性化に努める各地の取り組みを主力で応援している。今回は、大学などと連携し技

術開発を進める愛知県の農業総合試験場、新たな担い手育成によってイチゴ生産の振興を図る岐阜県、市民に農業体験の機会を提供する長野県松本市の試みを紹介する。

期待高まる技術開発

農業試験場が大学と連携

愛知県

愛知県の農業総合試験場 新しい品種の作出や農業 施設園芸「インテリジェ

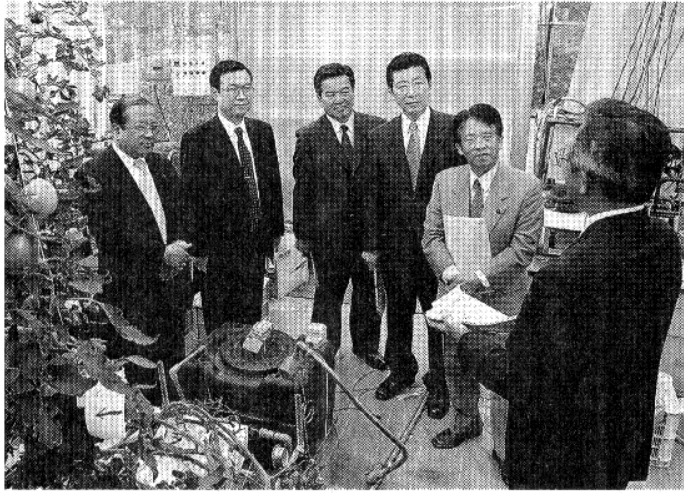
新品種などを開発。イネの病害抵抗性の有無が検出できるDNAマーカーも生み出し、昨年度は日本育種学会賞を受賞している。

場(長久手町)が昨年度から始めた、異業種の企業や大学との連携による研究が本格化し、魅力ある農業の実現と技術開発の迅速化に期待が高まっている。

た。党県議団は一貫して農業支援策を推進。中でも木藤俊郎県議は昨年12月議会で、若者の就農促進の観点から、農業と工業の連携による農業技術の開発を主張していた。

農業の担い手育成を目指し、農業と工業の連携を推進してきた公明党愛知県議団(渡会克明団長)は12日、同試験場を訪ね、職員から研究成果などについて聞いた。

同試験場は、農産物の



「インテリジェントハウス」について説明を聞く党県議団